兵庫県出土の和同開珎

渡辺　昇

Ⅰはじめに

今回、和同開珎の集成を行ったところ、兵庫県下で 26 遺跡確認できた。2000 年９月に金沢で開催された第７回出土銭貨研究会『畿内・七道からみた古代銭貨』では 17 遺跡であった。９遺跡増加したことになる。整理作業の進展や当時の事実誤認の訂正、そして新資料の増加によって数が変化している。

この中には、現存していない資料もあり、すべてが確認できるものではない。21 遺跡は確認できるが、その中でもすべての銭貨が残存しているものではない。伝承などで確実性が高いと判断したものは、現存していないものの出土例として挙げている。備蓄銭の例も含んでいる。明らかに中世出土のものであるが、古代銭貨の総体を考える上に意味があると考えたからである。出土数については、残存していないものは当然枚数に加えていない。

Ⅱ　出土分布と遺跡・出土地の性格

ii-1　旧国別分布

兵庫県は旧５ヶ国にまたがっている。但馬国・播磨国・淡路国については１国すべてが兵庫県であるが、丹波国・摂津国は県をまたいでいる。丹波国は京都府に、摂津国は大阪府にまたがっている。今回の数字は兵庫県分の数字であることを断っておく。

遺跡数は但馬国７遺跡、播磨国５遺跡、丹波国２遺跡、摂津国８遺跡、淡路国４遺跡である。枚数でみると但馬国９枚、播磨国 22 枚、丹波国６枚、摂津国 21 枚、淡路国４枚である。遺跡数では摂津国が多く、次に但馬国が多い。枚数では播磨国が多く、次に摂津国となる。摂津国は兵庫県側の方が大阪府側より出土例は少ない。摂津国は畿内に含まれていることもあり、兵庫県のなかでは圧倒していることは当然なのかもしれない。ただ、畿内の中では和泉国を除くと出土点数は僅かであり、大和国・山城国に比べると見劣りがする。

国別でなく、律令期の道によって分類すると、山陽道９遺跡・山陰道６遺跡（枝道含む）・南海道２遺跡となる。大路が多いという順当な結果が得られた。

ii-2　遺跡・出土地の性格

「集落」「官衙」「寺院」「墳墓」「祭祀遺跡」から出土している。「寺院」は播磨国分寺・但馬国分寺・淡路国分寺の兵庫県内に位置する国分寺すべてから出土している。（丹波国は京都府亀岡市に、摂津国は大阪市に国分寺が建立されている。）それ以外では但馬国で礎石建物から出土した大市山遺跡が確認されている。

「官衙」は、但馬国では但馬国府だけ（７遺跡中１遺跡）であるが、播磨国では５遺跡中２遺

跡と多くなる。丹波国は２遺跡中１遺跡、摂津国は８遺跡中５遺跡、淡路国は４遺跡中２遺跡とさらに高率となる。全県下では 11 遺跡（26 遺跡のうち）となる。

「集落」は定義が難しいが、銭貨以外に官衙的遺物が出土していないことや、駅路が通っていない地域とすると、全体で４遺跡となる。

「墳墓」例は但馬国２遺跡、丹波国１遺跡、播磨国１遺跡、摂津国１遺跡の５遺跡確認されている。蔵骨器を有していることから明らかにし易く、遺構の内容状況も明らかである。５遺跡とも駅路に接したところではなく、少し離れた山裾か丘陵上に立地している。駅路から大きく離れていないのも共通した立地である。

「祭祀遺跡」としたのは但馬国の１遺跡と摂津国の１遺跡である。姫谷遺跡は但馬国府の紋所と考えてられている遺跡であることから、祭祀遺跡とした。が、和同開珎出土状況などが明らかでなく、直接祭祀に使用したかどうかは不明である。摂津国では緡銭が土坑から出土しており、祭祀遺構かと考えている。

Ⅲ　出土遺構

出土状態が明らかなものは少なく、６遺跡が包含層から出土している。掘立柱建物跡・礎石建物跡・井戸・土坑などから出土している。

①掘立柱建物跡

摂津国の寺田遺跡と津知遺跡は隣接した遺跡で芦屋駅家に推定される官衙的な遺構が検出されている。さらに南接する深江北町遺跡では、銭貨以外にも墨書土器・木簡が出土しており、駅家関連の遺跡群と考えられる。寺田遺跡は倉庫と思われる総柱建物２棟が南北に並び、南側倉庫の東側に位置する掘立柱建物跡で明確な規模はわかっていない。検出した南東隅の柱穴から３点の和同開珎が出土している。津知遺跡でも掘立柱建物跡柱穴掘り方から２枚出土している。

丹波国市辺遺跡では南北に主軸を持つ掘立柱建物跡 SB13 の北西隅の柱穴（P481）から墨書土器に埋納された銭貨が確認されている。柱穴中央上面で検出されていることから、廃絶時に置かれたものであろう。杯Ａ内面に「金真□」と記されており、７枚の銭貨が置かれていた。その内訳は和同開珎１枚、萬年通寶１枚、神功開寶２枚と不明銭３枚である。SB13 を切っている溝 SD19 の肩部から銅印も出土している。

淡路国九蔵遺跡では柱穴からは出土していないが、大形建物 SB09 の北西隅に近い部分から和同開珎銀銭が出土している。明確ではないが、掘立柱建物跡の空間に存在したのではないかと思われる。平城京出土木簡に淡路国三原郡阿麻郷からの調塩付札が出土しており、その塩を作り、平城京へ運んだ遺跡と思われる。

②礎石建物跡

但馬国大市山遺跡は平安時代前期の山岳寺院である。その礎石建物の礎石掘り方内や礎石周辺から萬年通寶・神功開寶とともに出土している。礎石を据え置くにあたっての祭祀行為と思われ、地鎮の一種かと思われる。

③井戸

摂津国高畑町遺跡井戸 417 は１辺 3.5mの方形掘り方を持つ。井戸枠は方形横板積みの相欠き仕口組で、内法 1.2m で４段分残り、深さは 0.6m を測る。土師器皿・須恵器杯・木簡・斎串とともに和同開珎が１枚出土している。周辺に同時期の掘立柱建物跡は検出されていないが、木簡に国郡と日下部の文字が記されており、郡衙関連かとも思われる。

④土坑

播磨国上原因遺跡は飾磨郡衙に比定されている遺跡で市川左岸の平地北縁に所在する。南西方向に国分寺が位置している。国府は市川対岸の現在の姫路市街地に存在している。姫路城下町の下層で平面的に重複している。４地点から 22 枚の銭貨が出土している。銹着していることから４枚は銭種が不明であるが、18 枚は和同開珎であることから、すべて和同開珎の可能性が高い。掘立柱建物跡群の横の土坑・ピットから出土している。地鎮遺構ではないかと推測されている。SP96 は小壺の外に４枚の銭貨が置かれていた。土坑底に接しており、壺と並べられているのが興味深い。他のピットでは鉄滓も伴出しており特徴的である。

摂津国大田町遺跡で掘立柱建物跡の北側の直径 45cm、深さ 30cm の土坑に高台部を打ち欠いた須恵器壺が上向きに据え置かれている。壺内部から和同開珎２枚、萬年通寶３枚、神功開寶１枚と不明銭１枚の７枚の銭貨がﾅｽ・ﾓﾓ・ﾒﾛﾝ類の種子とともに出土した。脂肪酸分析の結果、胎盤に近い数値が得られたことから、胞衣壺の可能性が考えられている。また、埋納された種子から「歯固」の儀式かとも考えられている。特徴ある興味深い遺構であり、銭貨の出土状態である。和同開珎が含まれているものの、遺構の時期は壺から８世紀末と思われる。

⑤墳墓

蔵骨器が出土しているもので５遺跡確認されている。不時発見の例であるが、その時の調査記録から概観する。

但馬国辺坂峠遺跡は但馬国分寺・第１次国府推定地の西側丘陵上に所在し、道路拡幅工事に伴う墓地移転作業によって削平された時に壺などの容器に銭貨が入っていたようで、その内の３枚が保管されている。和同開珎が３枚で、その出土状況から墳墓と考えられる。

但馬国の伝観音寺出土例は容器が残されており、蓋付きの須恵器壺である。和同開珎１枚しか残存していないが、複数存在したと伝えられている。前記の辺坂峠遺跡と同一ではないかとも考えられているが、明らかではない。

播磨国小野遺跡は加古川右岸の平地に面する山裾で石櫃が出土しており、２枚の和同開珎が確認されている。

丹波国谷川生田坪遺跡は丹波の２河川である氷上郡の佐治川と多紀郡の篠山川の合流地点近くで出土している。詳細は不明であるが、兵庫県を代表する三彩として知られている。６枚の銭貨が納入されており、そのうち５枚は和同開珎である。

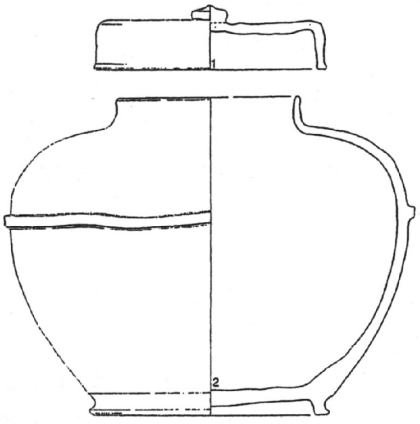
摂津国北米谷墳墓は４枚の凝灰岩板石の上に石櫃が置かれており、その中に金銅製容器が入れられていた。南向きの斜面に小平坦面を築いており、そこに４枚の基礎石を方形に据えている。その上に石櫃が置かれていた。石櫃は印籠蓋となる合わせ口になっており、身は 71cm×72cm の方形で高さ 46cm を測り、周囲を幅 10cm 前後に約７cm 掘り下げて周縁としている。蓋は 73cm 四

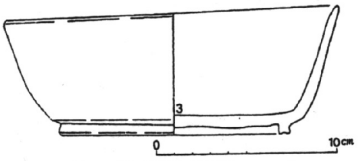
方で高さ 42cm を測り、身と合うように幅 10cm で、周囲を残している。身蓋ともに径 25cm の半球形に削っている。石櫃周囲に人頭大の石を積み重ねて方形になっていた。石櫃の中に入れられていた容器は銹化が進んでおり、緑青が吹いていたが金銅製である。身は鉄鉢形容器で口径 22.2cm、最大腹径 24.2cm、器高 12.8cm を測る。転用されたものかと思われ、口縁部に３ヵ所の小孔が穿たれている。蓋は中央が突出しており、実用とは思われず蓋用として作成されたものであろう。口径 23.0cm、器高 7.0cm で、身と同様に口縁部に３ヵ所穿孔が見られる。石積みの前（南側）に約 60cm 離れて平瓶と土師器皿２枚が置かれており、その平瓶の中から６枚の和同開珎が出土している。

Ⅳ　おわりに

兵庫県の和同開珎の出土例を概観した。出土状態から性格を明らかにできるものは墳墓例以外では、地鎮と思われる掘立柱建物跡・礎石建物跡に伴う例がある。出土位置は駅路に沿った遺跡がすべてではないが、比較的隣接したところから出土していることが判る。古代銭貨全体でみてみると、兵庫県で 57 遺跡が確認されており、そのうち 26 遺跡が和同開珎を出土している。奈良３銭貨に広げると 39 遺跡となる。大半の遺跡が奈良時代の銭貨が出土（遺構の時代は合致しない）していることが理解される。新しい銭貨は摂津国で多く出土しており、荘園の広がりを示唆しているのではないかと思われる。

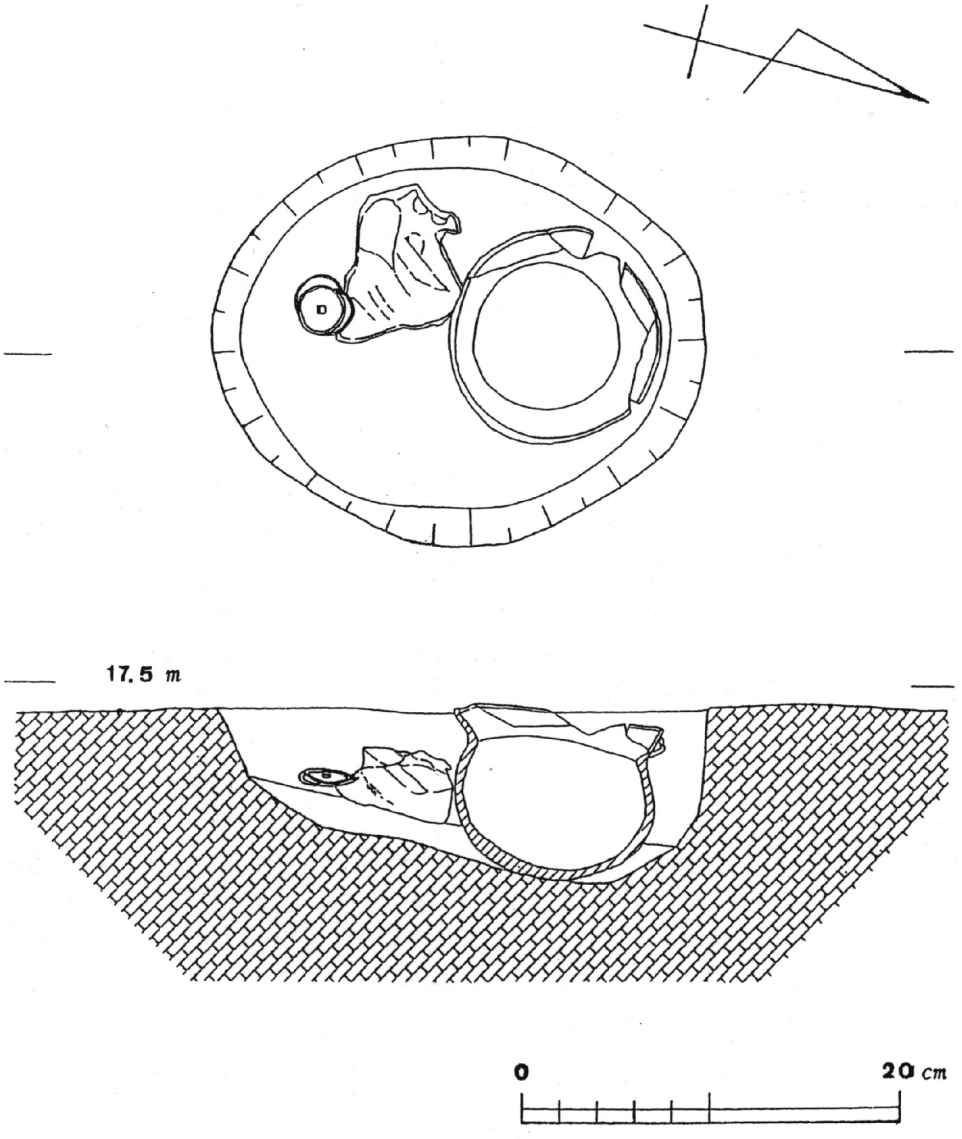
和同開珎で特徴的な点は、兵庫県で２点しか出土していない銀銭が淡路国で出土していることである。



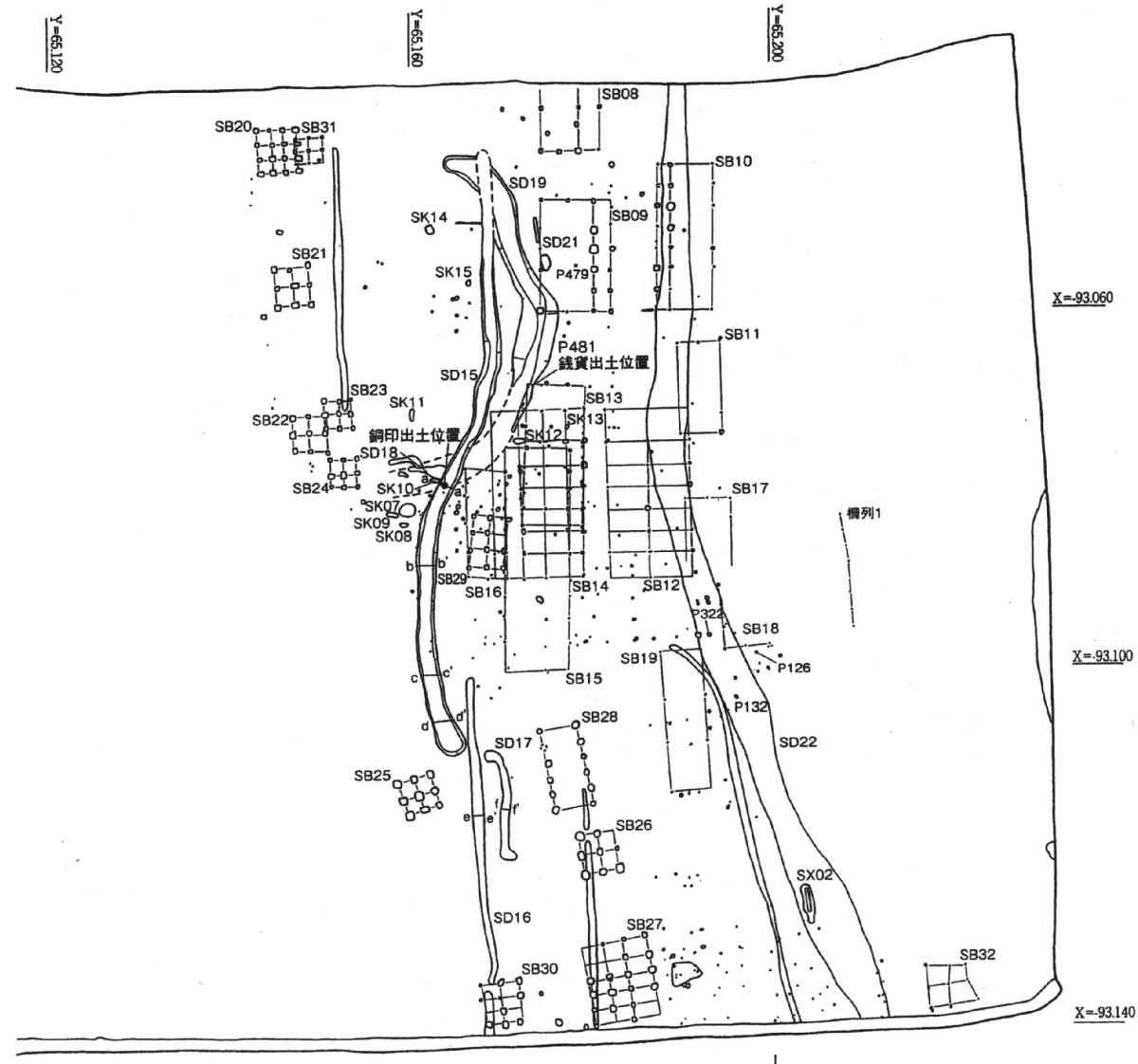


第150図　須恵器

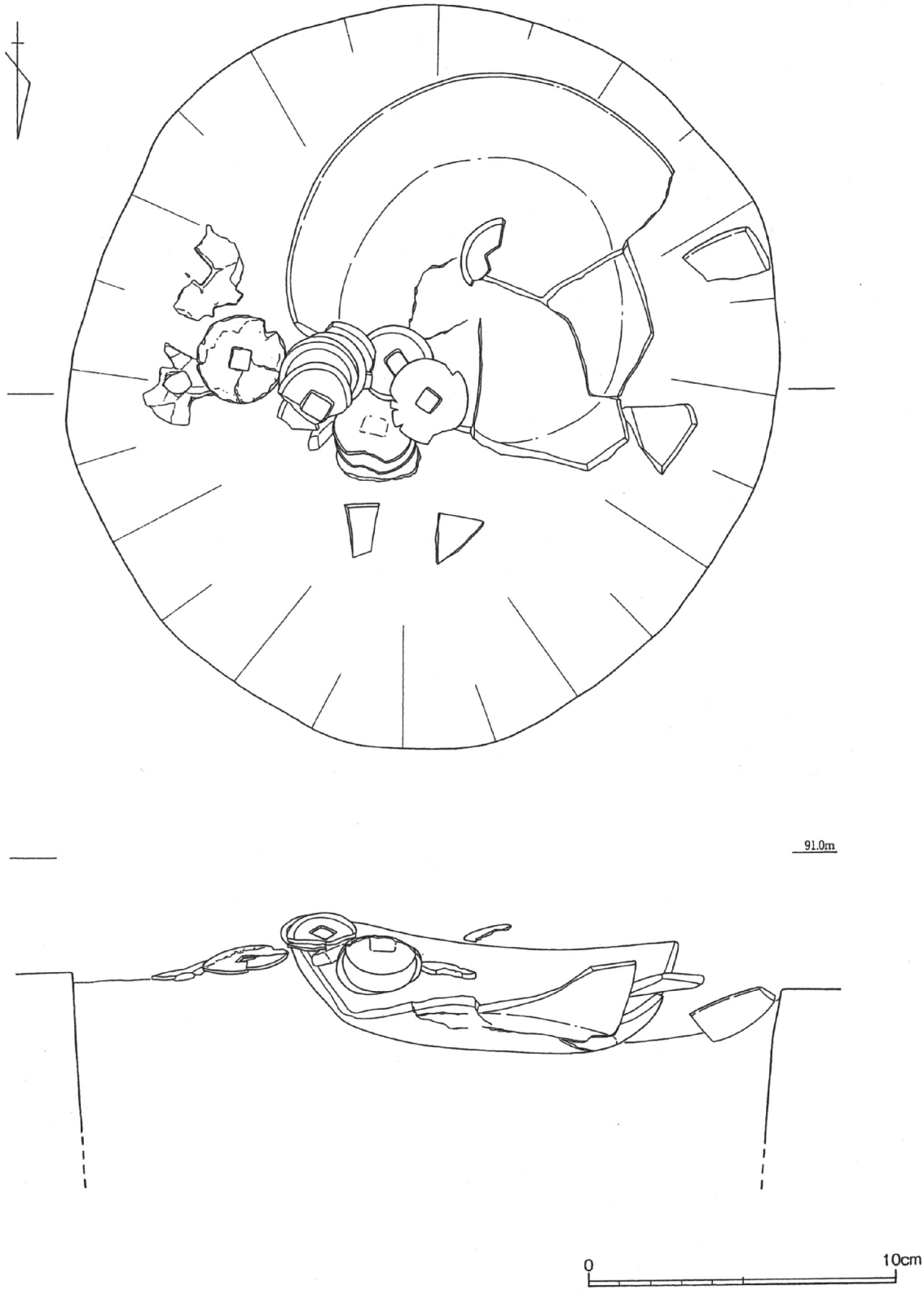
伝観音寺



上原田遺跡


Y=65.120
Y=65.160
Y=65.200
X=-93.060
X=-93.100
X=-93.140
SB08
SB20
SB31
SB10
SD19
SB09
SK14
SD21
SB21
SK15
P479
SB11
P481
銭貨出土位置
SD15
SB23
SK11
SB13
SB22
SK13
銅印出土位置
SK12
SD18
SB24
SK10
SK07
SK09
SK08
SB17
柵列1
SB29
SB16
SB14
SB12
P322
SB18
SB19
P126
SB15
P132
SB28
SD22
SD17
SB25
SB26
SX02
SD16
SB27
SB32
SB30
0
40m
P481
353

市辺遺跡



市辺遺跡

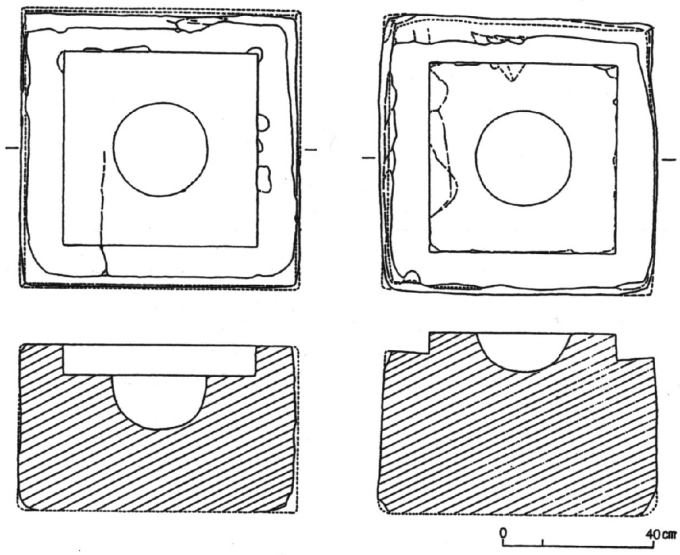


図 102　米谷火葬墓の石櫃　蓋(左)と身(右)

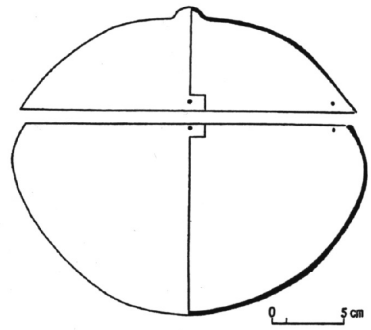


図 103　米谷火葬墓の金銅製蔵骨器

北米谷遺跡

寺田遺跡

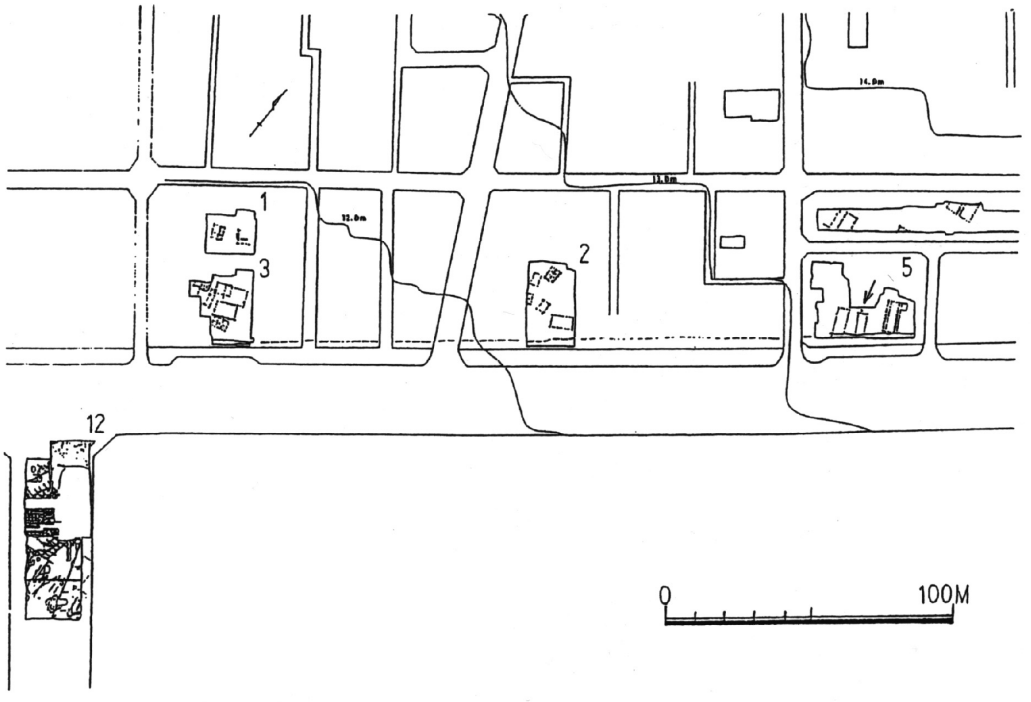
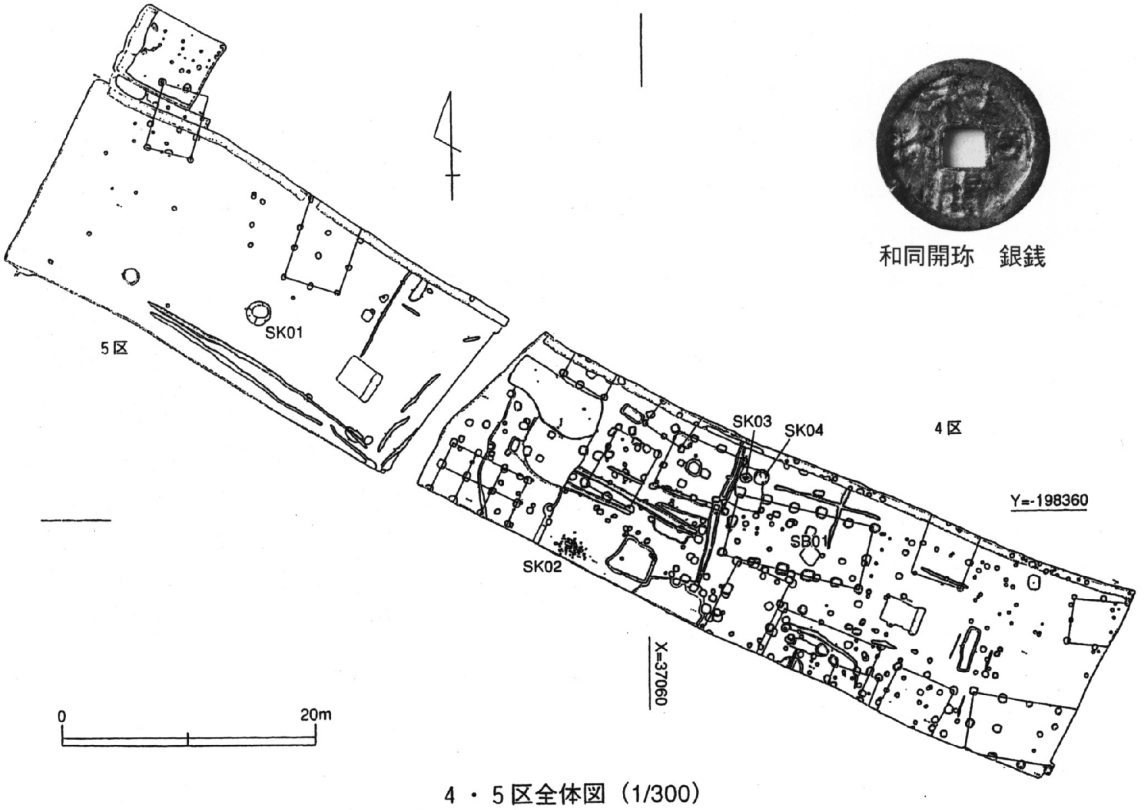


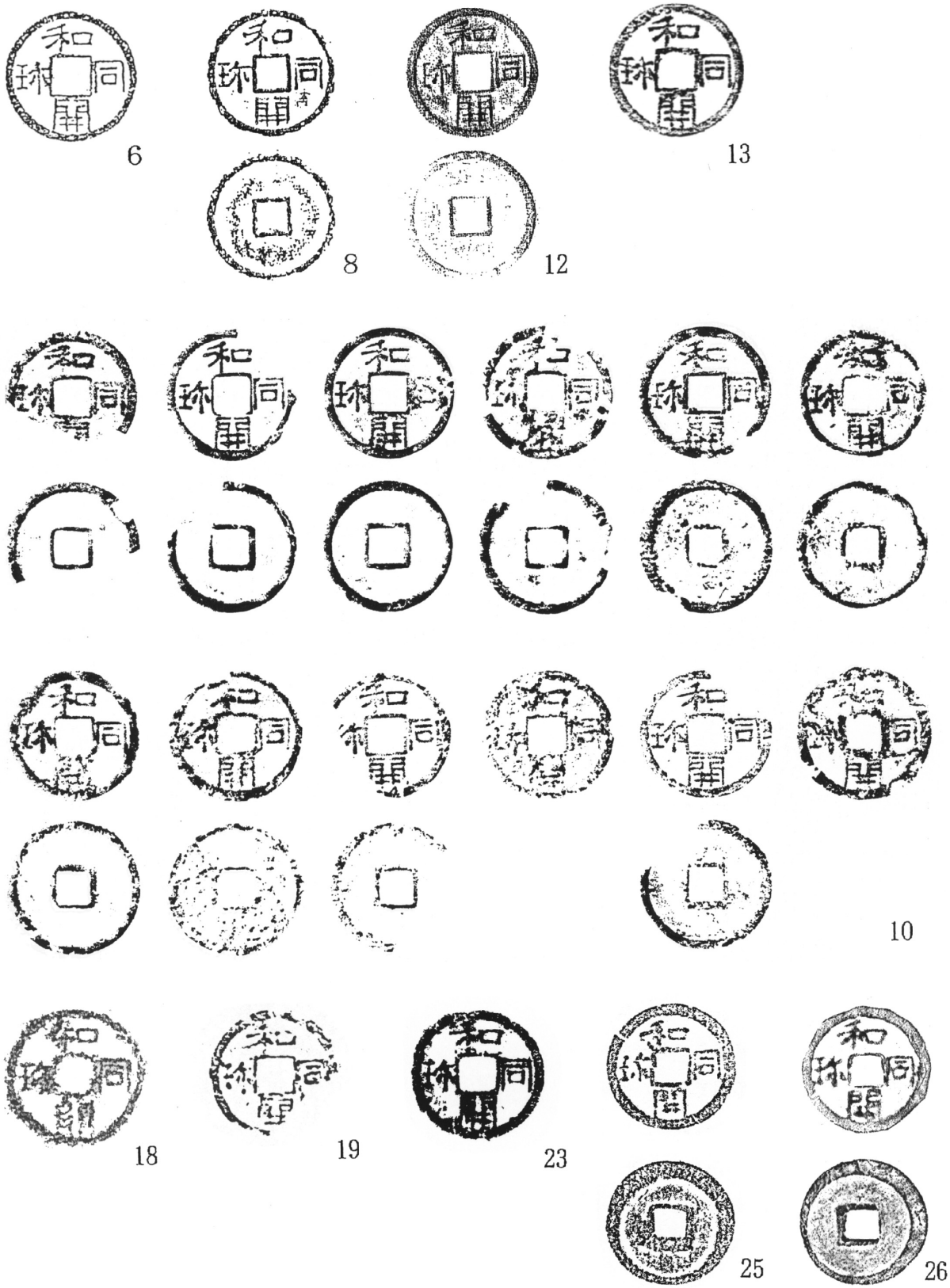
図２　大田町遺跡奈良～平安時代主要遺構集成図　数字：調査次数　→：土器埋納遺構
『御蔵遺跡Ｖ』発掘調査報告書神戸市教育委員会 2001 fig.145 を改変

大田町遺跡



４・５区全体図（1/300）

九蔵遺跡



兵庫県出土の和同開珎